

東大海洋研 木村 竜治氏
 気象庁
 企画課長 駒林 誠氏
 業務課長 新田 尚氏

4. その他

- (1) 前理事へ記念品贈呈について 恒例により事務局で記念品を調達し、さしあげる

ことにした。

- (2) 秋季大会委員長の委嘱について 関西支部長山元竜三郎氏に委嘱することで了承された。

承認事項 上野孝雄ほか14名の新入会員を承認

第21期第3回常任理事会議事録

日時 昭和55年9月29日(月) 8.45~12.30

場所 気象庁総務部入札室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 荒井, 内田, 河村, 黒木, 二宮, 松本, 増田, 村山

報告 1. 9月8日, 沖繩支部長から, 第5期沖繩支部役員の報告がきた。

2. 9月11日, 第21回国際理論応用陸水学会議組織委員会から, 会議資料が送られてきた。

〔会計〕 8月分の会計報告。委員会の予算要求については講演企画委員会から出ている。

〔気象集誌〕 編集委員として九州大学の宮原三郎氏を追加したい。また100周年記念特別号の編集委員として, 吉野正敏(筑波大学), 廣田勇(京都大学), 松野太郎(東京大学), 新田尚(気象庁)の4氏を21期の編集委員のほかにお願したい。

〔気象研究ノート〕 第1回目の委員会で引継ぎ事項について検討した。企画して進んでいないものについては, 10月20日の委員会で整理する。この際進めてゆくもの, やめるものについてははっきりさせる。編集事務担当は野口晋孝氏である。

〔講演企画〕 9月1日に秋季大会プログラム編成, 大阪管区気象研究会と共催のため講演数多く245編の申込みがあった。従って講演時間を12分, スライドを8枚に制限するようにした。第1日目の昼に, 座長会議を開いてスムーズに運営できるよう協力をお願いしたい。

〔学会賞・藤原賞〕 学会賞担当理事 松本誠一
 委員 山元竜三郎, 田中正之, 朝倉 正, 松野太郎

藤原賞担当理事 松本誠一

委員 浅井富雄, 清水逸郎, 斎藤直輔, 吉野正敏

以上21期の委員をお願いしたい。推薦について選考もれになったものを次回の推薦の中に入れるかどうかははっきりさせたい。学会賞, 藤原賞の受賞者選定規定によると学会賞が9月に, 藤原賞が8月に委員を委嘱するとなっているが, 時期的に無理がある。検討を要する。

〔奨励金〕 さきの常任理事会で報告したが, 全理事に資料を送り投票させる。

〔長期計画〕 委員指名

〔教育と普及〕 教養の気象学ができあがった。さきに提出した委員のうち島貫陸氏を削除し, 担当理事に山元竜三郎氏, 委員に古橋重利氏(大阪)を追加したい。

〔学術用語〕 (1) 9月13日第1回の委員会を開いた。

(2) 文部省学術用語集気象学編(第1版4刷)の出版に携わった大井正一会員(当時担当理事)から経緯, 経験などをうかがった。

(3) 用語集改訂版の出版を目標とした作業手順を作り, 早速各委員が作業に着手した。昭和56年2月第2回会合を開き, 原稿の草案をまとめる予定である。

(4) 用語集第1版4刷の訂正加除を行う。新しい用語の追補に力を入れる。改訂版出版は, 56年度中を予定している。

〔山本賞〕 委員指名

議題 1. 全国理事会提出課題

(1) 昭和56年度第1次予算(案)について

荒井理事から予算編成について概要の説明があった。主なものは、ア。「天気」に「ひまわり」の写真を掲載してきたが、中止することにした。これについては、「天気」編集委員会で討論する。イ。「気象研究ノート」は、年間6冊720頁を5冊600頁とする。単価の算出方法もかえたため収入減となった。ウ。管理費の印刷製本費の支出減は、役員選挙、名簿印刷がなくなったためである。エ。事業費の印刷製本費は、「統・気象学への手引」、「天気」への「ひまわり」写真の中止、ノートの減頁により支出減となった。オ。税の見なおしが行われたため租税公課が大幅に増えた。カ。管理費、事業費とも郵便料値上げに伴い大幅に増えた。これに対し、(a)筑波から来る理事、委員の交通費の不足。(b)座長会議の昼食代。(c)関西支部で行う夏季大学の補助の件。(d)学術用語集改正版刊行に要するアルバイト費。(e)「気象集誌」と「天気」の1号当りの頁数が実情に合っていない。等の意見が出され検討することになった。なお、各委員会では2年に1回会計報告書を提出することとした。全国理事会では時間の制約があるためあらかじめ予算書(案)を送付して検討しておいて貰うこととした。

2. 大会運営について

- (1) 秋季大会第4日目は、16時30分までに終えるよう座長にも協力を依頼し、「天気」の9月号のプログラムにも出してある。
- (2) 秋季大会の講演持ち時間(12分)の短縮とスライドの枚数制限等についても「天気」9月号に告示した。
- (3) 講演時間を12分~15分について方針を決めて欲しい。

- (4) 予稿集の締切りを15日早めるとプログラム編成、予稿集の印刷にも余裕がでてくる。
- (5) 予稿集を見れば分るものについては、質問だけにすることも一方法である。
- (6) 来年は、夕方のセッションを考慮したい。
- (7) 総会の成立人員の件については、他の学会を調べて欲しい。それによっては定款の変更もやむを得ない。

3. 100周年記念事業について

WMOのDr. G.K. Weiss あて出した“Regional Technical Conference on Tropical Meteorology”については、返事がこない。席上話題としたい。

4. 各委員会委員について

席上第21期の役員委員の一覧表を提出し承認をして貰う。

5. その他

- (1) 来年の春季大会は、東京大学が当番である。
- (2) 文部省の科学研究費審査員候補者の推薦 浅井富雄氏(東京大学海洋研究所)、菊地勝弘氏(北海道大学理学部)の2名を推薦する。
- (3) 教養の気象普及書について

気象学会で取扱うかどうかについては、検討した結果、税金等の面倒なことが付帯するので取扱わないことにする。

- (4) 日本のGARP委員会が開催計画中の世界

気候変動研究計画の一部である海洋タイムシリーズ観測に関するWork Shopの東京での開催について、主催の件が理事会で了承された。

承認事項 木村史之ほか4名の新入会員を承認。